

令和4年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和4年11月～令和4年12月

3 調査の概要

・小学校5年生と中学校2年生の全ての児童生徒を対象

(対象者数)	小学校5年生	862人
	中学校2年生	855人
	合計	1,717人

・市内の小学校27校、中学校8校全ての小中学校で実施

4 備考

本報告書において、

- ・スマホ等とは、スマホ(スマートフォン)またはケータイ(従来型の携帯電話)のことを表す。
- ・小学校とは、小学校5年生、中学校とは、中学2年生を指す。

令和5年5月

津山市教育委員会
学校教育課

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概 要 〉

①スマホ等の所持率

- ・自分の使うスマホ等を持っている割合は、小学校56.1%、中学校83.6%であり、増加を続けている。特に、小学校の上昇率が高い。
- ・持ちっかけは、小中学校ともに、「家族との連絡のため」が最多であった。

②長時間利用の割合

- ・平日1日に平均2時間以上使用している割合は、小学校33.2%、中学校66.5%となった。中学校の上昇率が高い。

③スマホ等を利用する時

- ・スマホ等をよく利用する時は、小中学校ともに「自宅で家族といるとき」、「自宅で一人でいるとき」が多い。

④家にいるときに何に利用しているか

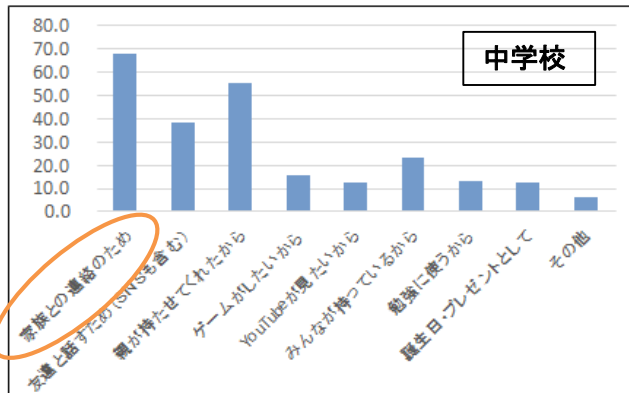
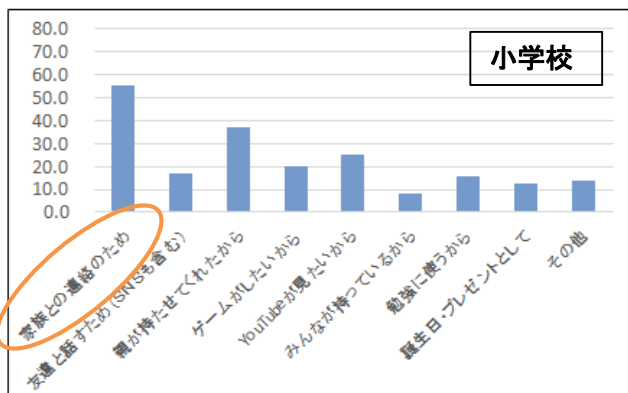
- ・小学校は、「ゲーム」、「音楽や動画の視聴等」の順に多く、中学校では、「友達との会話(SNS含む)」が最多となり、次に「音楽や動画の視聴等」が多くなっている。
- ・勉強で使うと答えた児童生徒は30%前後いる。

① スマホ等の所持率(%)

	小学校	中学校
R4	56.1	83.6
R3	48.2	78.3
R2	43.9	75.7

小中学校ともに上昇を続けている。特に小学校は上昇率が高い。

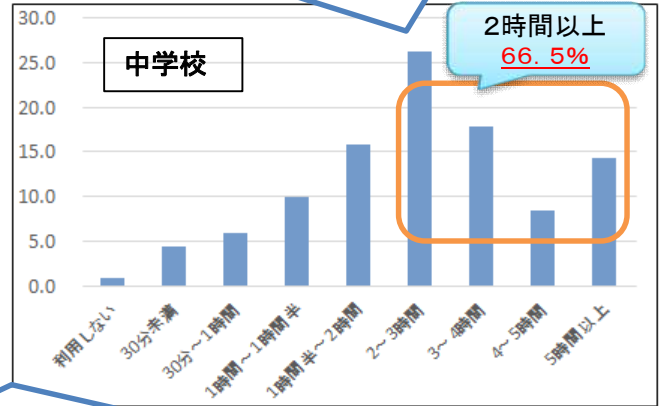
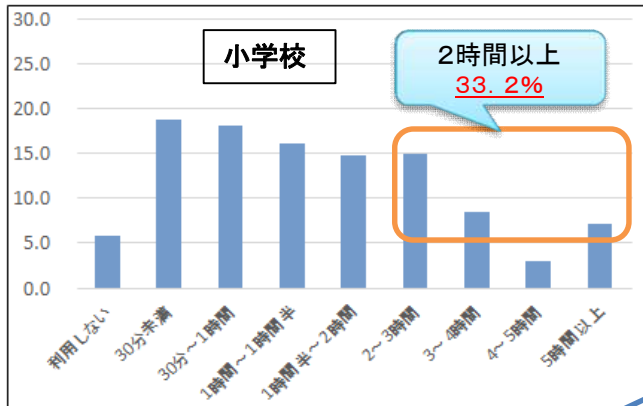
・持ちっかけは？(%)【複数回答】



きっかけは「家族との連絡」が最多。その後の使用状況は？

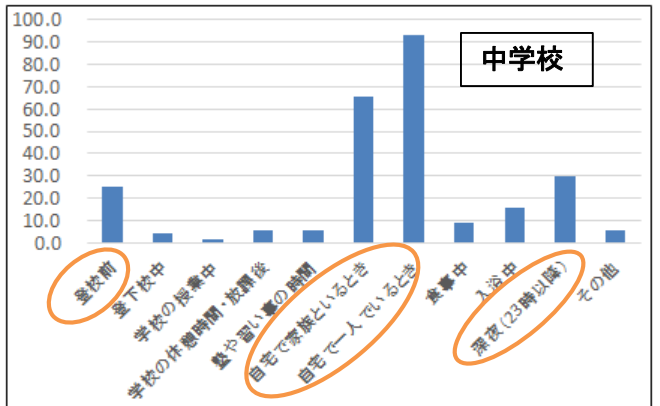
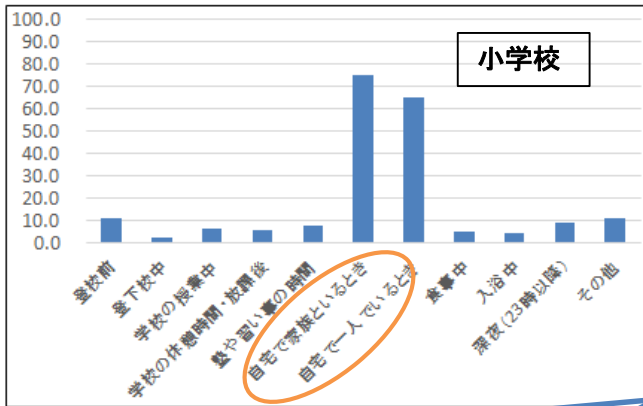
② 平日1日のスマホ等の利用時間別割合(%)

中学校の上昇率が高い。



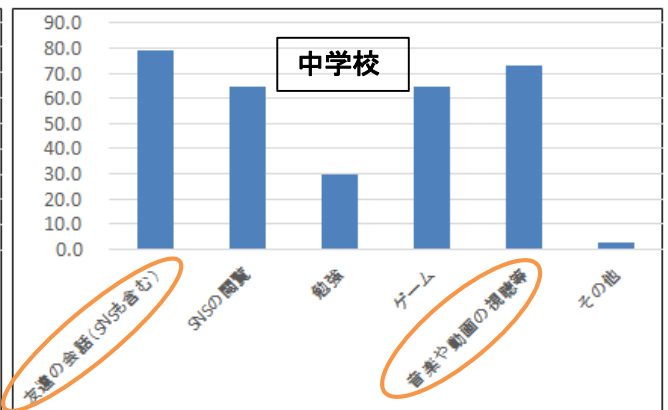
参考 (R3)2時間以上 小学校:32.5% 中学校:56.7%

③ スマホ等をよく利用するとき(%)【複数回答】



家族との時間、個人の時間によく利用している。

④ 家にいるときにスマホ等を何に利用しているか?(%)【複数回答】



持つきっかけと利用実態のギャップ。小学校のその他は、「家族との連絡」が多い。勉強で使うと答えた児童生徒は30%前後いる。

(2) スマホ等の利用による影響について

〈 概 要 〉

①スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために減った時間が「ある」

- ・スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために「減った時間がある」と回答した割合は、小学校31.9%、中学校35.4%であった。

②減った時間の具体

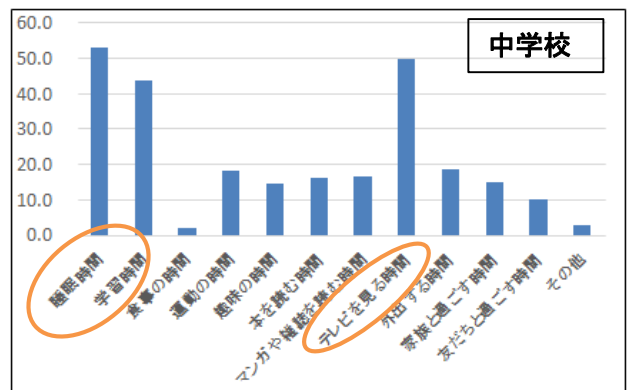
- ・①の「減った時間」の具体として、小中学校ともに、「睡眠時間」「学習時間」の割合が高く、スマホ、ゲーム等の利用が生活習慣や学習面へ影響を及ぼしていることがわかる。
- ・「テレビを見る時間」が小学校47.2%、中学校49.5%と高く、児童生徒が触れるメディアに変化が生じてきていると推測される。

① スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために減った時間が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R4	31.9	35.4
R3	29.8	37.2
R2	32.5	40.6

中学校は減少傾向にある。
小学校と中学校の差が縮まってきている。

② スマホ、ネット、ゲーム機等を利用した為に減った時間は？(%)【複数回答】



「学習時間」や「睡眠時間」が減ったと自覚している小学生は20%、中学生は40%をそれぞれ超えている。
「テレビを見る時間」が減ったと答える児童生徒の割合が高い。

(3) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概 要 〉

①インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担があるか

・インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合は、小学校7.9%、中学生13.3%であった。小中学校ともに昨年度より増加している。

②具体的な悩みや負担

・①の具体的な悩みや負担として、小学校では「自分の書き込みを後で悩む」「自分の悪口を書かれていないか」「自分の書いたメッセージに反応がない」が全て24.6%と一番多い。中学校では「自分の書き込みを後で悩む」「コミュニケーションサービス内の人間関係」「自分の個人情報をごどこまで書いてよいか」の順に多い。

③インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験をしたことがあるか

・インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験が「ある」と回答した割合は、小学生7.4%、中学生11.1%であった。小学校では減少し、中学校では増加している。

④具体的な嫌な経験

・③の具体的な嫌な経験として、小学校では、「ゲームの中でトラブルになった」、中学校では、「書き込んだ内容が誤解された」が最多であった。

⑤相談相手

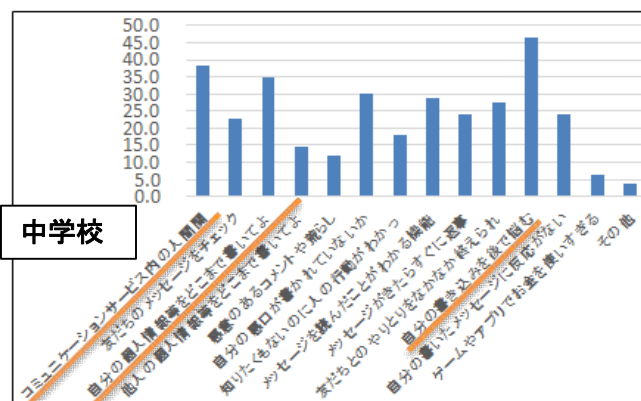
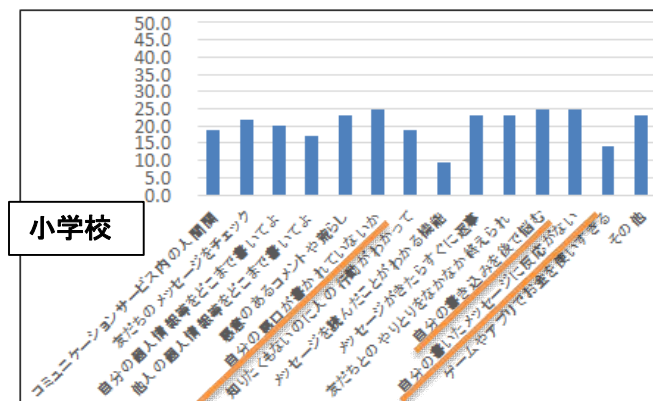
・嫌なことがあっても相談をしない児童生徒の割合が高い。
・小中学校ともに、相談相手を「友達」と回答した児童生徒の割合が高い。
・小学校では、相談相手を「家族」と回答した児童の割合が高く、70%を超えている。

① インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R4	7.9	13.3
R3	7.6	12.6
R2	11.2	17.9

小中学校ともに昨年度より増加している。

② インターネットやコミュニケーションサービスを利用することでの具体的な悩みや負担(%)【複数回答】

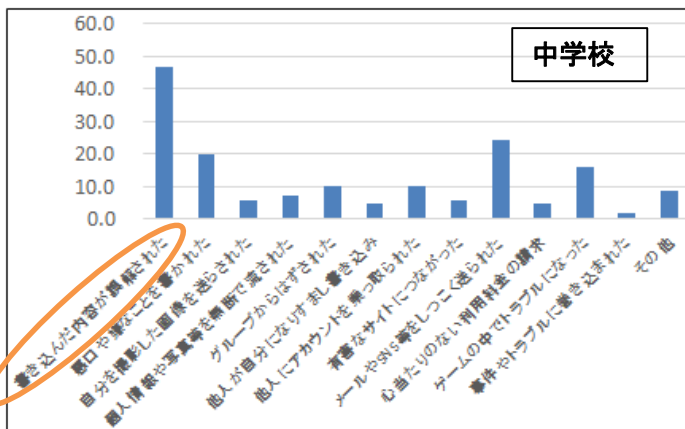
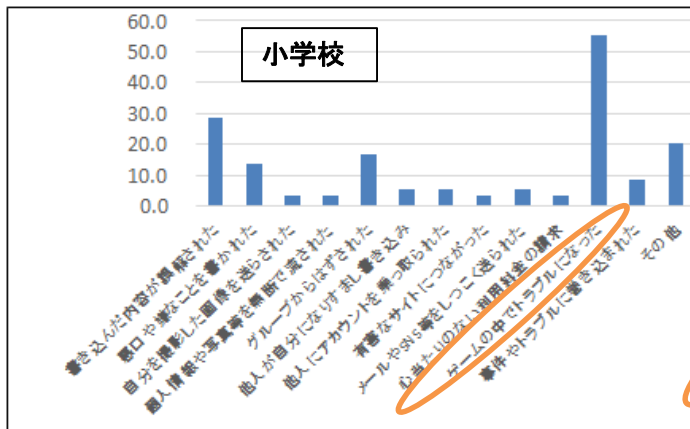


③ インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験が「ある」と回答した割合(%)

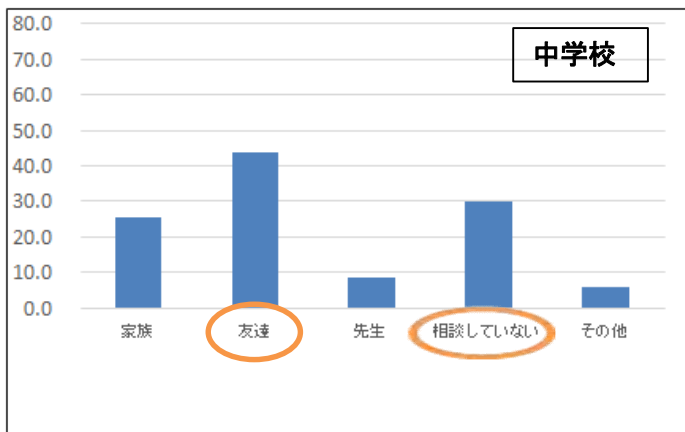
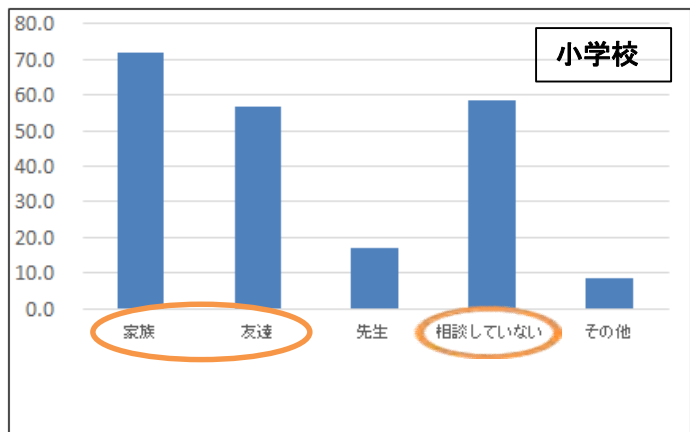
	小学校	中学校
R4	7.4	11.1
R3	9.8	8.8
R2	9.4	10.8

小学校で減少し、
中学校では増加している。

④ インターネットやコミュニケーションサービスでの具体的な嫌な経験(%)【複数回答】



⑤ 嫌なことがあったときに相談した相手(%)【複数回答】



- ・嫌なことがあっても相談をしない児童生徒の割合が高い。
- ・小中学校ともに、相談相手を「友達」と回答した児童生徒の割合が高い。
- ・小学校では、相談相手を「家族」と回答した児童の割合が高く、70%を超えている。

(4) スマホ等の利用に関する家庭のルールについて

〈 概 要 〉

①家庭のルールがあるか

- ・スマホなどに関する家庭のルールが「ある」と回答した割合は、小学生68.0%、中学生62.8%であった。
小中学校ともに増加している。

②スマホに関するルールの内容

- ・小中学校ともに、「使用合計時間」「使用する最終時間」が多くなっている。

③ルールを守れているか

- ・スマホなどに関する家庭のルールを「守れている」と回答した割合は、小学校が46.6%、中学校が46.4%であった。

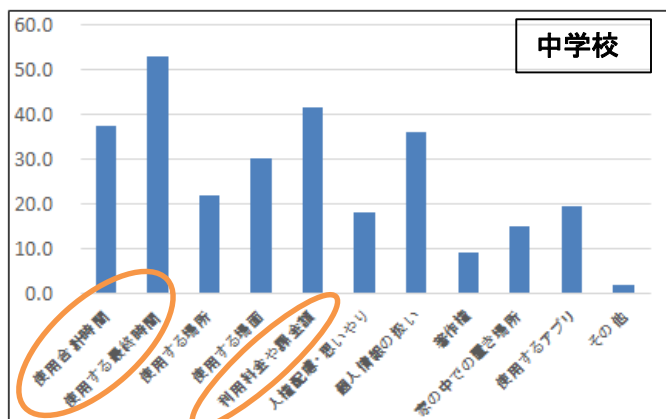
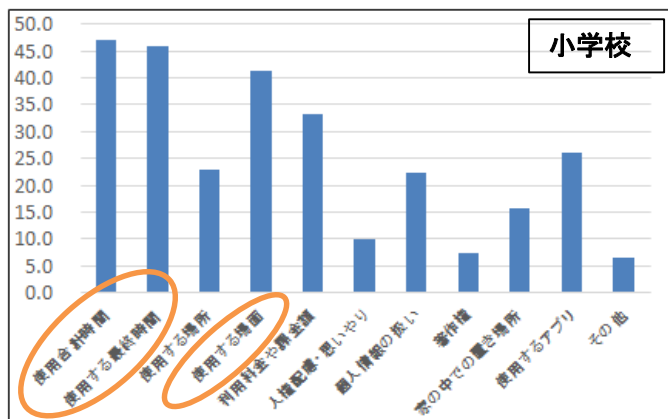
① スマホなどの利用に関して家庭のルールが「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R4	<u>68.0</u>	<u>62.8</u>
R3	64.7	55.9
R2	61.0	57.5

小中学校ともに増加。

※津山市の目標値(令和6年度)スマートフォン等の利用について時間・マナー等の家庭で決めたルールがある 目標:小学校65%以上、中学校60%以上

② スマホに関するルールの内容(%)【複数回答】



③ルールを守れている割合(%)※「どちらかというを守れている」を含まない

	小学校	中学校
R4	<u>46.6</u>	<u>46.4</u>
R3	51.7	46.5
R4	47.0	42.5

- ・小中学校ともに減少
- ・ルールを守れている児童生徒が、半数程度である。

(5) スマホやネット等の危険性に関することについて

〈 概 要 〉

① スマホやネット等の危険性について学んだことがあるか

・スマホやネット等の危険性について学んだことが「ある」と回答した割合は、小学校77.0%、中学校86.6%であった。

② スマホやネット等の危険性について学んだ相手・方法

・「学校」から学んだという回答が小学校では78.6%、中学校では91.3%となっている。
・「保護者」から学んだという回答は、小学校では59.0%、中学校では44.7%となっている。

③ フィルタリング設定

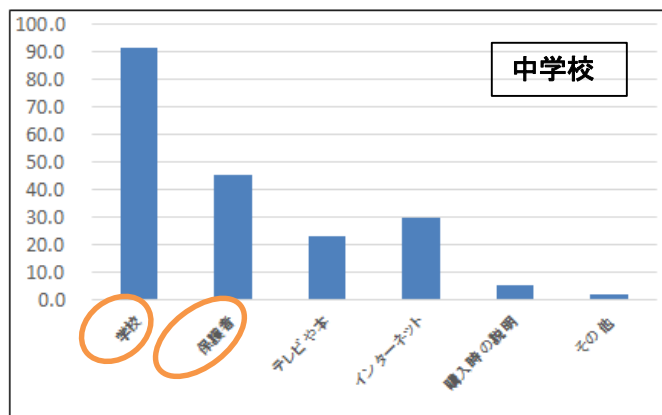
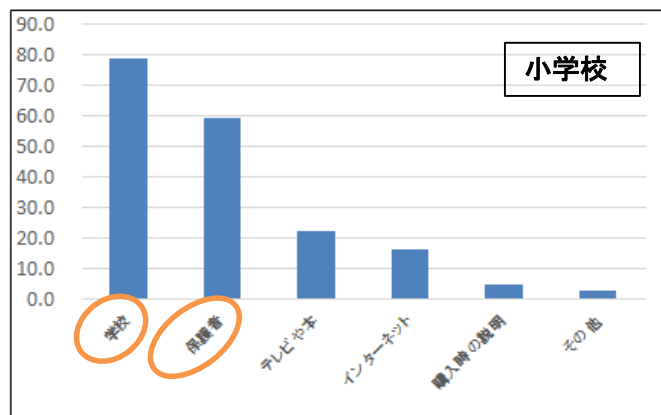
・フィルタリングを設定している割合(ネットにつながらないを含む)は、小学校が30.0%、中学校が37.0%であった。

① スマホやネット等の危険性について学んだことが「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R4	77.0	86.6
R3	84.1	87.8
R2	85.4	87.4

小中学校ともに減少している

② スマホやネット等の危険性について学んだ相手・方法(%)【複数回答】



③ フィルタリング機能を設定している(%)

	小学校	中学校
R4	30.0	37.0
R3	33.0	34.6
R2	31.7	35.0

小学校は減少し、
中学校は増加している。

※「ネットが使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

(6) 総合考察

- スマホ等の所持率は、増加し続けている。特に小学生の上昇率が高い。また、スマホ等などの利用に伴い、睡眠時間や学習時間が減ったと多くの児童生徒が自覚している。
→今後も小中学校とも、「スマホ等の利用に関する取組」を進めていく必要がある。
- インターネット等を利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合は、小中学校ともに増加している。またインターネット等で嫌な経験が「ある」と回答した割合は、中学校で増加している。具体的な経験としては、小学校は「ゲームの中でトラブルになった」、中学校は「書き込んだ内容が誤解された」が最多である。
→「情報活用能力(情報モラルを含む)の育成」を進めていく必要がある。
- 困ったときに、相談をしない児童生徒の割合が高い。また、相談相手としては「友達」の割合が高い。
→「SOSの出し方に関する教育(SOSの受け止め方に関する教育を含む)」を行っていく必要性がある。
- 家庭のルールが「ある」と回答した割合は、小学校68.0%、中学校62.8%で、津山市の目標値を上回っている。その内容としては、「使用合計時間」「使用する最終時間」が小中学校ともに多い。しかし、ルールを守れている割合は、小中学校ともに減少し、50%を下回っている。また、フィルタリング機能を設定している児童生徒の割合は40%を下回っている。
→家庭でのルール作りと振り返り、フィルタリング機能の設定に関する啓発を行う。

※津山市の目標値(令和6年度)スマートフォン等の利用について時間・マナー等の家庭で決めたルールがある
目標:小学校65%以上、中学校60%以上

(7) 今後の取組

【短期的な対策】

- 自校の児童生徒のスマホ等の使用に関する実態を継続的に把握し、『ネット依存防止マニュアル』(H30.3県教育委員会作成)等を参考にして必要な取組を行う。
- 「チャレンジ・ハッピーデー」(6月・11月)を各校で実施し、児童生徒の生活がスマホやゲーム、テレビ等に縛られないよう、児童生徒、保護者へ継続的・計画的に啓発する。
- PTA研修会やこども家庭講座、地区懇談会等の機会をとらえて、地域や保護者へ情報提供を行う。
※ 保護者啓発リーフレット「スマホ購入虎の巻!!」(令和2年1月発行)やペアレンタルコントロールの設定の仕方の解説動画「わが家のスマホアクション」(岡山県教育委員会作成)も有効に活用する。

【中長期的な対策】

- 『SNSノートおおさか』を活用し、児童生徒の情報モラル・リテラシーの強化を図る。
- 児童生徒や保護者を交えた意見交流の機会(例えば、こども家庭講座や子育てワークショップ等)を設定して、家庭と連携したメディアコントロールの取組を進める。
また、中学校ブロックごとに情報共有を行い、取組を広げる。
- 情報活用能力(情報モラルを含む)を育成する教育活動を行う。その際、児童生徒が課題意識をもてるような児童生徒主体の取組もすすめていく。
- 様々な困難・ストレスの対処方法を身につける教育(SOSの出し方に関する教育(SOSの受け止め方に関する教育含む))を各教科等と関連を図りながら計画していく。